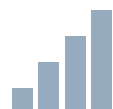

インターライフホールディングス株式会社

2027年2月期第2四半期 個人投資家向け会社説明会

本日の説明会のポイント

収益性



過去最高益を更新中

事業ポートフォリオの再編を進め、
2026年2月期は**4期連続で過去最高益**
を達成。2027年2月期も増益計画

強み



独自の空間プロデュース力

「内装工事」と「音響・照明設備」
の2本柱を組み合わせ、**空間演出を
ワンストップで対応**

将来性



2030ビジョンに向けて

2031年2月期、**売上高250億円、
営業利益20億円、
時価総額150億円**を目指す

株主還元



配当性向50%超

2027年2月期の通期連結業績予想
及び期末配当予想を修正し、
期末配当金の増配を予定

2027年2月期第2四半期 決算サマリー

第2四半期業績

増収増益で過去最高益更新

売上高・売上総利益率

9,657百万円

前年同期比 **+8.3%**

25.5%

前年同期比 **+2.3**ポイント

営業利益・営業利益率

1,216百万円

前年同期比 **+33.0%**

12.6%

前年同期比 **+2.3**ポイント

親会社株主に帰属する中間純利益・中間純利益率

986百万円

前年同期比 **+50.5%**

10.2%

前年同期比 **+2.9**ポイント

財務比率

ROE **18.7%**

前年同期比 **+3.9**ポイント

PBR **1.7**倍

前年同期比 **+0.3**倍

通期業績予想の修正について

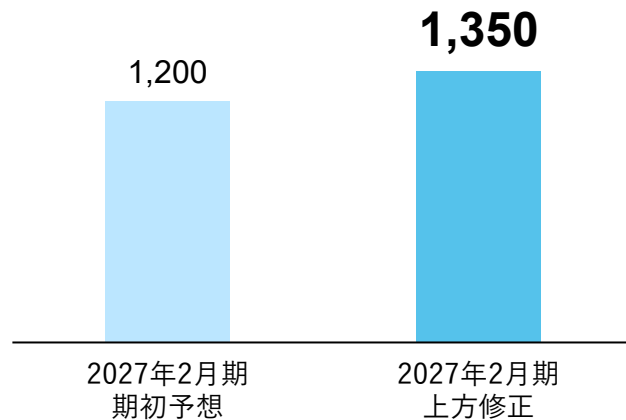
上期の業績が堅調に推移し、当初計画の営業利益を上回る見込みとなったことから、営業利益を上方修正。
加えて、投資有価証券の売却益283百万円の計上により、当期純利益を上方修正。
年間配当金については特別配当6円を加え、36円に増配。配当性向50%以上を維持。

営業利益

1,350百万円

期初計画比 **+12.5%**

(百万円)

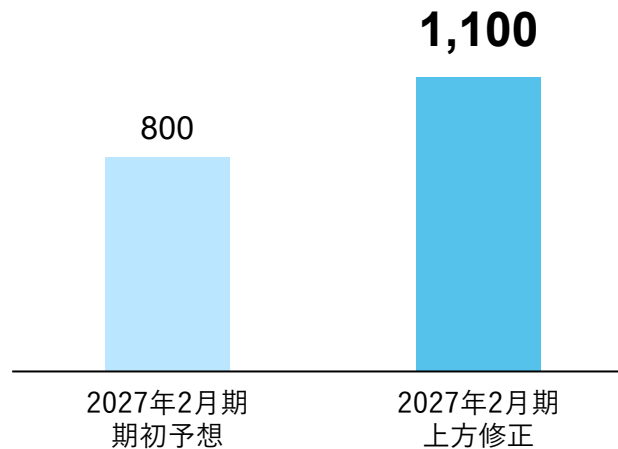


親会社株主に帰属する当期純利益

1,100百万円

期初計画比 **+37.5%**

(百万円)

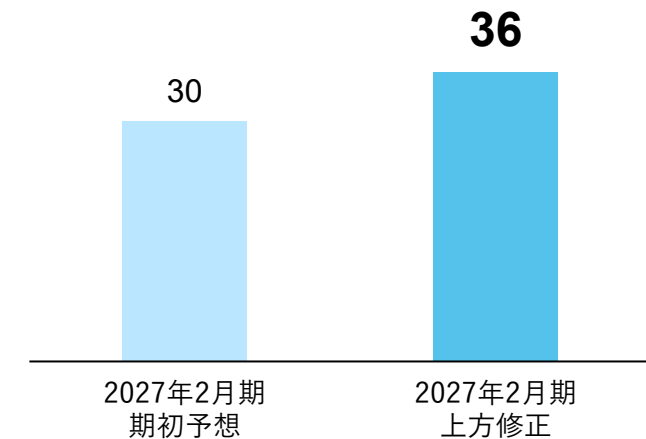


年間配当金

36円

期初計画比 **+6**円

(円)



■ Index

目次

01 会社概要

02 2027年2月期第2四半期決算概要

03 2027年2月期業績予想

04 成長戦略

■ Company

会社概要

基本情報

私たちについて

沿革

ビジネスモデルと強み

01

基本情報

商 号	インターライフホールディングス株式会社
資 本 金	2,979,460,510円
代 表 者	代表取締役社長 貴田晃司
設 立	2010年10月5日
所 在 地	〒104-0061 東京都中央区銀座六丁目13-16 銀座ウォールビル11階
従業員数	249名 ※2026年8月31日現在
上場市場	東京証券取引所 スタンダード 1418



経営理念

私たちは、あらゆる人々に
感動と喜び溢れる快適空間を提供し、
社会に貢献いたします。

社名である「InterLife」には、“人と人との生活空間を取り持つ企業でありたい”という思いが込められています。

「あらゆる人々」という言葉には、発注者のみならず、施設を利用されるお客様に感動をお届けしたいとの思いがあります。

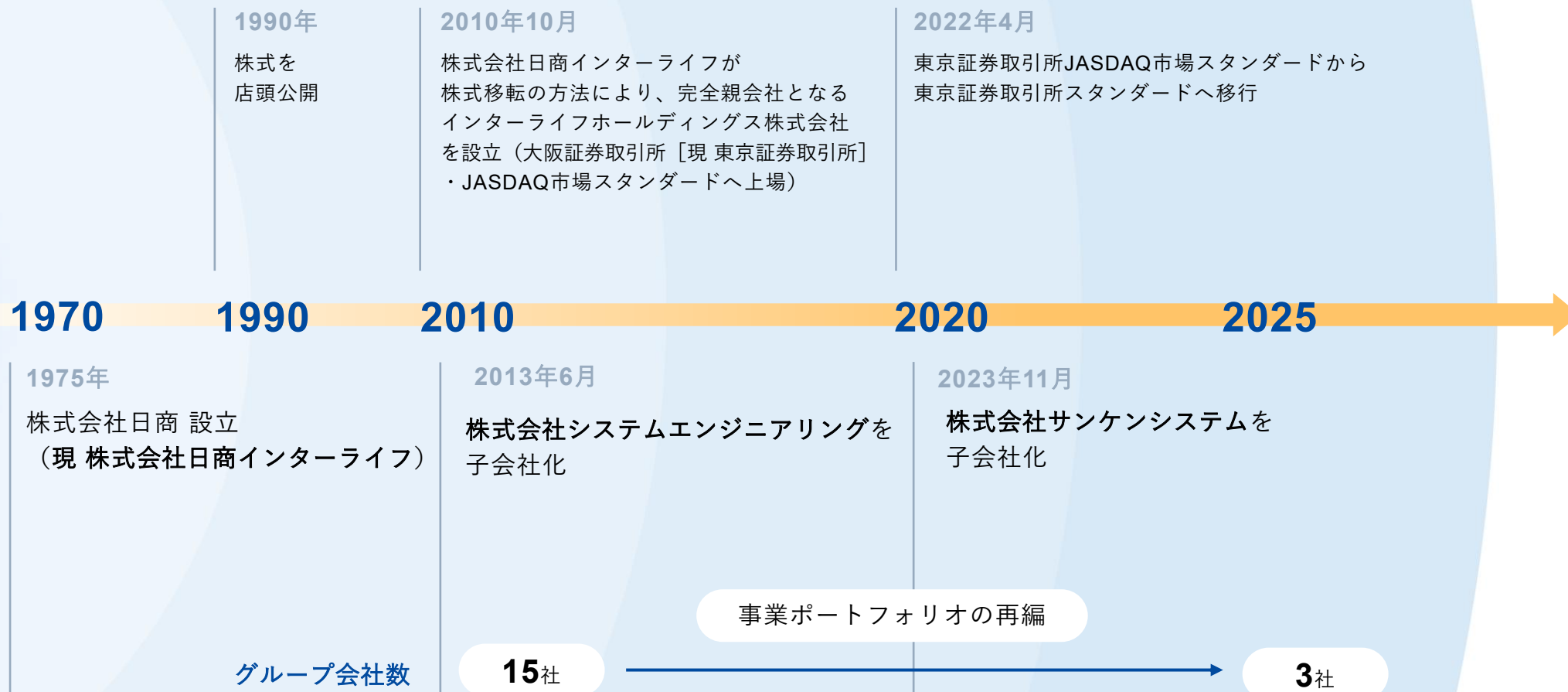
私たちは「魅力ある店舗・施設のトータルサービス」を提供する施工現場のプロ集団として、グループ会社それぞれの強みを活かし、多岐に渡るジャンルの空間を創造してまいりました。

1975年の創業以来50年強、当社は商業施設を中心に店装業を展開し、他にはない繁盛店づくりに努めてまいりました。これからも私たちはグループ総合力の一層の強化を図り、サービス品質の向上・顧客満足度の向上に邁進してまいります。

市場の移行状況



当社グループの状況

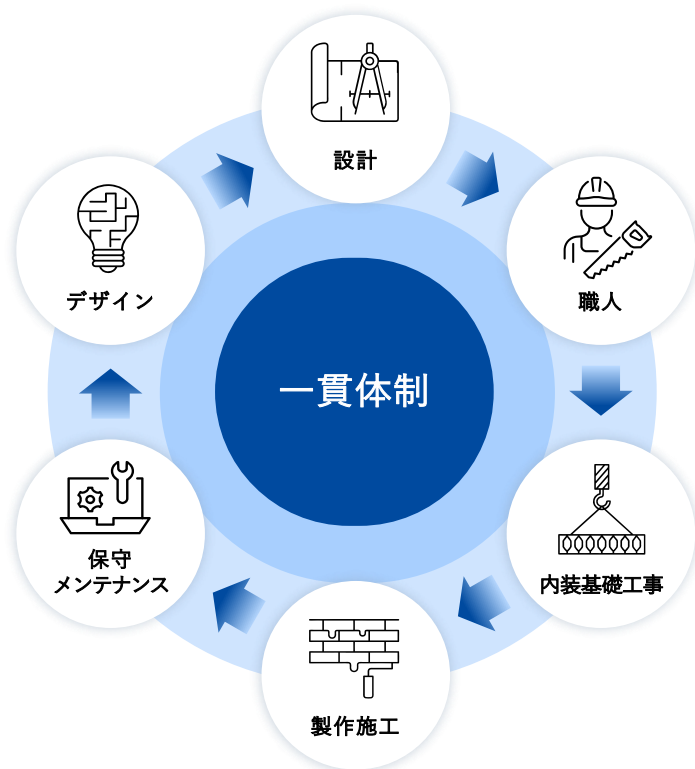


内装工事事業のビジネスモデル

内装工事事業



- 内装の下地工事を行う「専門部門」（主に下請け）と商業施設等の企画デザイン、設計、施工を行う「商環境部門」（主に元請け）を展開。



強み

1

機動力

約250人の匠（職人集団）による
施工力と機動力で、高品質な施工を
短工期にて仕上げ抜く。

強み

2

対応力

元請けと下請け両方を兼ね備え、
1社で施工の対応ができるオンリー
ワンの業態。

強み

3

一貫体制

企画から設計・施工・メンテナンス
まで一貫した体制を構築。

専門部門



商環境部門



音響・照明設備事業のビジネスモデル

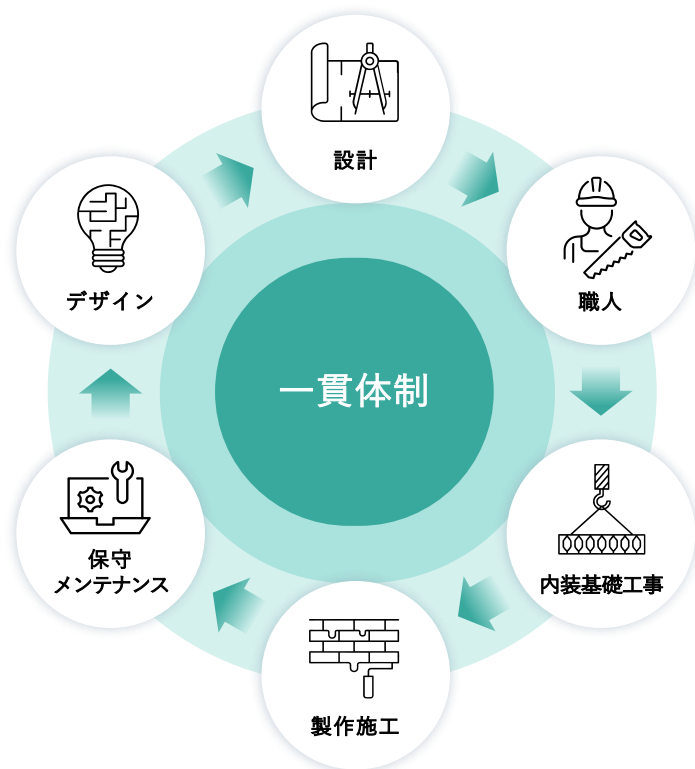
株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

株式会社 サンケンシステム

InterLife
HOLDINGS
インターライフホールディングス株式会社音響・
照明設備事業株式会社 システムエンジニアリング
SINCE 1970株式会社 サンケンシステム
SINCE 1973

- ホテルなどの演出特殊設備（音響・映像・照明・吊物）、議場の会議システム等の企画・設計・施工・保守までの総合プロデュースを展開。
- AVC（オーディオ・ビジュアル&コントロール）機器設備のシステム構築販売・企画・設計から製作・施工・保守管理まで一貫支援。

株式会社 システムエンジニアリング
SINCE 1970強み
1

提案力

顧客のニーズを正確に把握し、最適なソリューションを提案。プロジェクト全体を円滑に進める。

強み
2

総合力

音響・照明・映像の3部門を一括して対応できるため、使い勝手のよいシステムの設計・施工が可能。

強み
3

一貫体制

企画・設計・施工・保守、全てにおいて最先端の技術をフル活用。

株式会社 サンケンシステム
SINCE 1973強み
1

施工力

創業は1972年。映像音響・舞台設備の技術を磨き続けて50年の実績がある。

強み
2

技術力

AVCシステムに必要な特注品の設備・機材の製作まで幅広く対応できる。

強み
3

一貫体制

AVCシステムの企画提案から施工・保守までをワンストップ。

■ Business Results

2027年2月期第2四半期 決算概要

連結損益計算書 (P/L)

連結貸借対照表 (B/S)

連結キャッシュフロー

事業別の業績

事業別の業績推移

02

連結損益計算書（P/L）

内装工事事業、音響・照明設備事業において、大型案件の工事進行が当初の計画より進んだことに加え、期内の新規受注が堅調に推移。加えて、投資有価証券の売却などにより増収・大幅増益となった。

(百万円)	2025年2月期 第2四半期	2026年2月期 第2四半期	2027年2月期 第2四半期	前年同期差異	前年同期比率
売上高	8,160	8,917	9,657	+739	+8.3%
売上総利益	1,593	2,065	2,459	+394	+19.1%
売上総利益率（%）	19.5	23.2	25.5	+2.3pt	-
販売費及び一般管理費	1,145	1,151	1,243	+92	+8.0%
販売費及び一般管理費率（%）	14.0	12.9	12.9	▲0.0pt	-
営業利益	448	914	1,216	+302	+33.0%
営業利益率（%）	5.5	10.3	12.6	+2.3pt	-
経常利益	451	908	1,238	+330	+36.4%
経常利益率（%）	5.5	10.2	12.8	+2.6pt	-
親会社株主に帰属する中間純利益	384	655	986※	+331	+50.5%
中間純利益率（%）	4.7	7.3	10.2	+2.9pt	-

※投資有価証券の売却益283百万円を特別利益として計上。

連結貸借対照表（B/S）

総資産は現預金の増加などにより増加、負債は前期末比で横ばい。純資産は中間純利益の計上などにより増加した。

(百万円)	2026年2月期末	2027年2月期 第2四半期末	増減	主なポイント
資産の部				
流動資産	6,567	7,261	+694	現預金1,073、売上債権等△622、 未成工事支出金217
固定資産	2,701	2,560	▲141	投資有価証券△157百万円
資産合計	9,269	9,822	+552	
負債・純資産の部				
流動負債	3,379	3,449	+70	賞与引当金△120、未払法人税等 197
固定負債	1,214	1,114	▲99	
負債合計	4,593	4,563	▲29	
純資産合計	4,676	5,258	+582	純利益986、配当金△317
負債純資産合計	9,269	9,822	+552	

連結キャッシュフロー

営業活動によるCFは利益の増加により1,244百万円となった。投資有価証券の売却により、投資活動によるCFも248百万円となった。これらにより、現預金残高は期首残高に比べて1,072百万円増加し、3,671百万円となった。

(百万円)	2026年2月期 第2四半期	2027年2月期 第2四半期	主なポイント
営業活動によるCF	1,907	1,244	税前中間純利益1,519、売上債権等622、棚卸資産△218、法人税△306
投資活動によるCF	▲381	248	投資有価証券283
財務活動によるCF	▲501	▲420	配当金△316、借入金△84
現金及び現金同等物の期首残高	1,492	2,598	
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,516	3,671	期首残高と比較し、1,072の増加

会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

事業別の業績 [2027年2月期 第2四半期]

内装工事業は、高採算の大型案件が完工したことや清掃案件の新規受注が堅調であったことなどにより増収・大幅増益。
音響・照明設備事業は、受注済み案件の完工が順調に推移したが、前年度と比べ工事案件の規模が小さく減収減益。

(百万円)	売上高			セグメント利益		
	2026年2月期 第2四半期	2027年2月期 第2四半期	前年同期比率	2026年2月期 第2四半期	2027年2月期 第2四半期	前年同期比率
内装工事業	5,025	5,874	+16.9%	383	771	+101.1%
音響・照明設備事業	3,868	3,783	▲2.2%	599	521	▲12.9%
設備・メンテナンス事業	24	－※		▲14	－※	
合計	8,917	9,657	+8.3%	968	1,293	+33.6%

※前連結会計年度において「設備・メンテナンス事業」に含まれていた玉紘工業(株)の全株式を譲渡し、
連結の範囲から除外したことに伴い、当中間連結会計期間より「設備・メンテナンス事業」の区分を廃止

事業別の業績推移

内装工事業

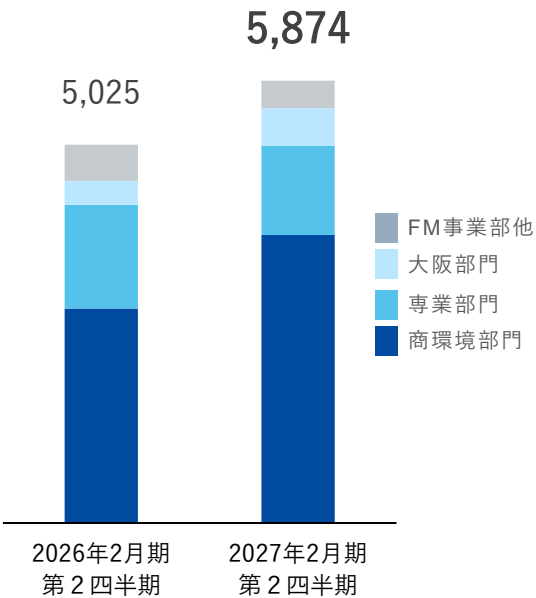


売上高
(前年同期比 16.9%増)

(百万円)

セグメント利益
(前年同期比 101.1%増)

(百万円)



音響・
照明設備事業

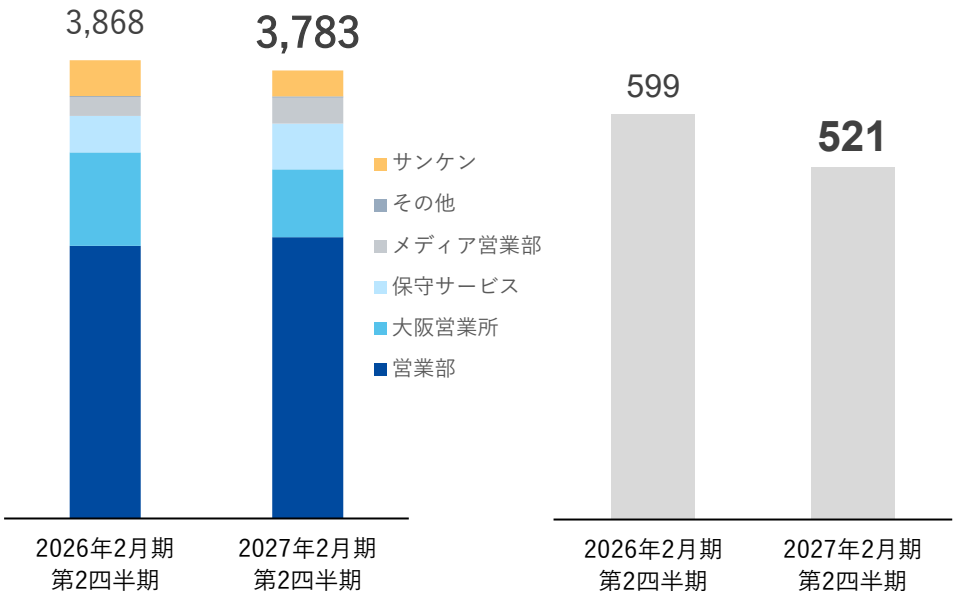


売上高
(前年同期比 2.2%減)

(百万円)

セグメント利益
(前年同期比 12.9%減)

(百万円)



各社のビジネスモデル

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

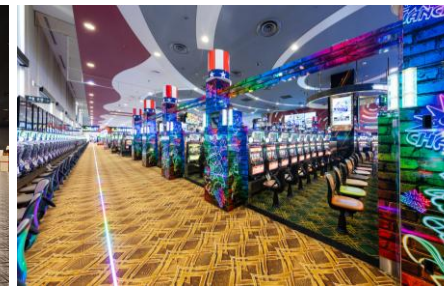
株式会社 サンケンシステム

InterLife
HOLDINGS
インターライフホールディングス株式会社

施工実績

ピーパーク北綾瀬駅前 様

納入会場：ピーパーク北綾瀬駅前店 店内
工事内容：内装工事全般



会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

各社のビジネスモデル

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

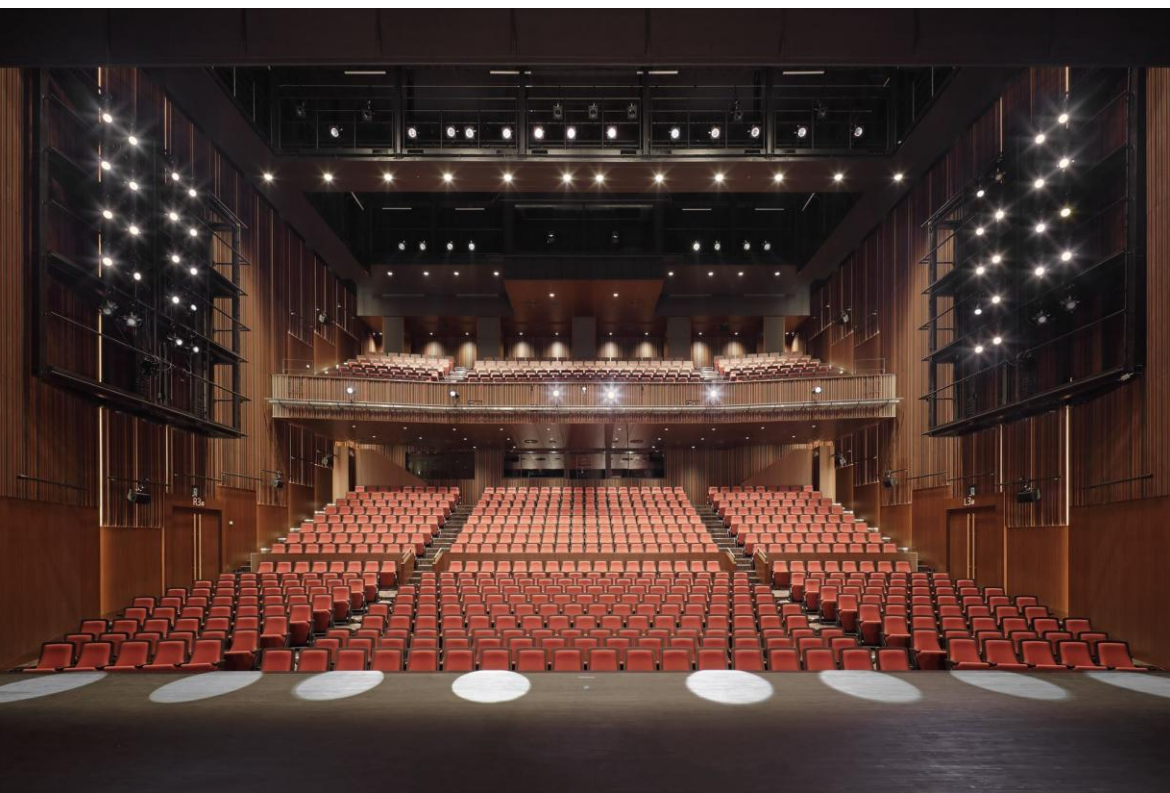
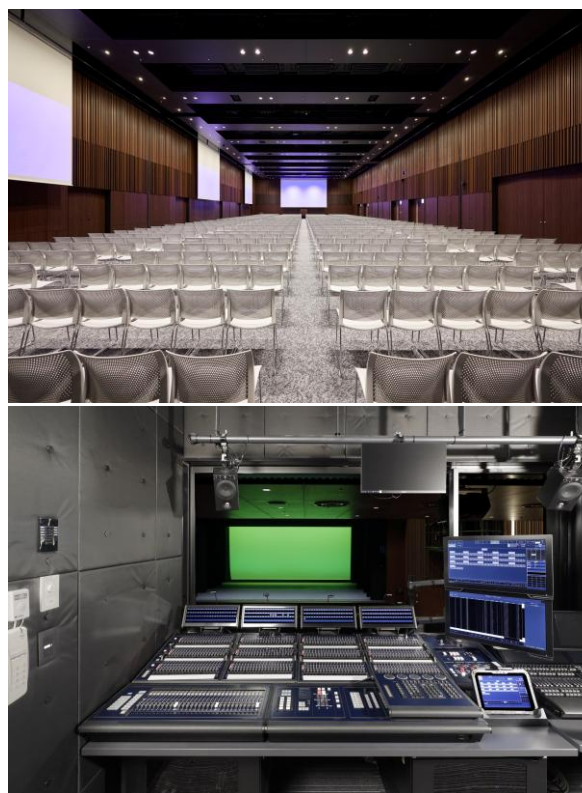
株式会社 サンケンシステム

InterLife
HOLDINGS
インターライフホールディングス株式会社

施工実績

TOFROM YAESU 様 (東京駅前八重洲一丁目)

納入会場：劇場・カンファレンスホール・会議室・お祭り広場
工事内容：舞台音響映像、舞台照明、舞台機構



※日商インターライフもTOFROM YAESU 様の大型工事（14階～19階）を担当。
施工：オフィス移転工事（14階～19階）

会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

各社のビジネスモデル

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

株式会社 サンケンシステム

InterLife
HOLDINGS
インターライフホールディングス株式会社

施工実績

ヒルトン東京お台場 様

納入会場：1階大宴会場

工事内容：映像設備（大型LEDビジョン）



会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

各社のビジネスモデル

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

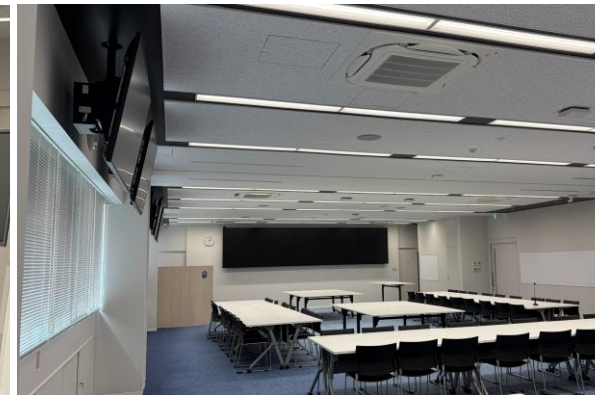
株式会社 サンケンシステム



施工実績

徳島市危機管理センター 様

納入会場：4階災害対策本部室・3階総合対策室
工事内容：災害対応オペレーションシステム



会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

各社のビジネスモデル

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

株式会社 サンケンシステム



施工実績

岡山市新庁舎 様

納入会場：議場・委員会室・議会大会議室

工事内容：議場設備・映像音響設備・出退表示設備



会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

■ Earnings Forecast

2027年2月期 業績予想

連結業績予想
四半期ごとの業績変動

03

連結業績予想 [2027年2月期]

2027年2月期の売上高は17,000百万円を計画。
利益面は上方修正を行い、営業利益1,350百万円、経常利益は1,370百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,100百万円を見込む。

(百万円)	2026年2月期 実績	2027年2月期 期初予想 (2026年4月開示)	2027年2月期 修正予想 (2026年10月上方修正)	前期比
売上高	16,336	17,000	17,000	+4.1%
営業利益	1,166	1,200	1,350	+15.7%
経常利益	1,156	1,190	1,370	+18.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	828	800	1,100	+32.8%

四半期ごとの業績変動

当社の事業は、工事や設備導入のお引渡し（完工）のタイミングで売上や利益を計上するケースが多い。
そのため四半期ごとの業績や進捗率には上振れ・下振れが生じるが、通期業績の確実な達成に向けた事業運営を行っている。

業績予想の前提

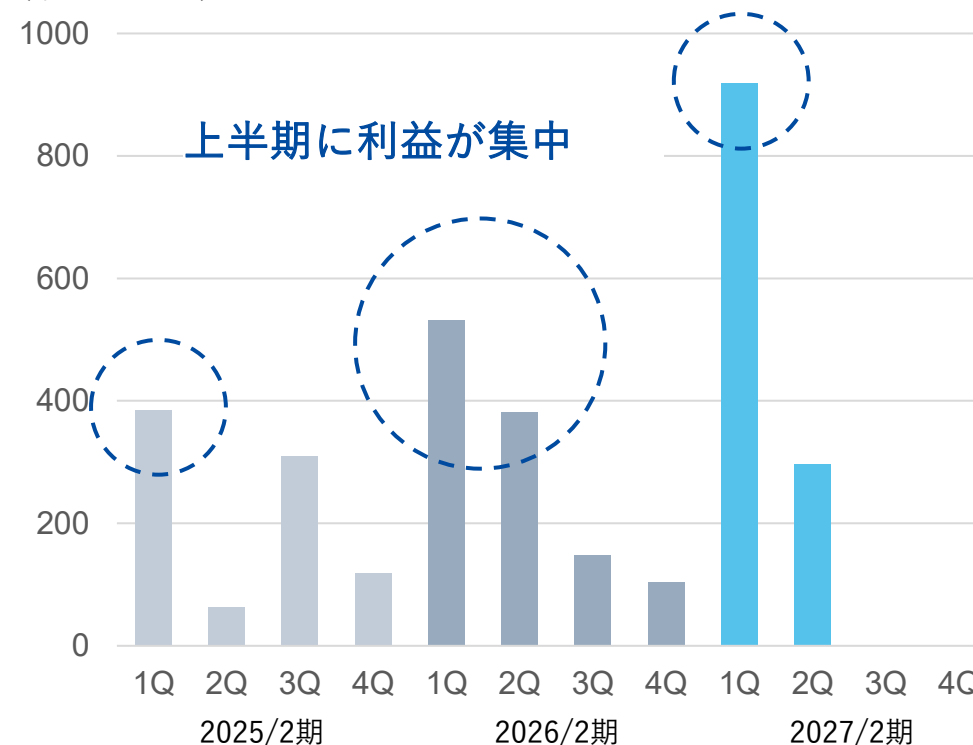
- 売上や利益の計上は、大型案件の引き渡し時に数字が集中する
- そのため、四半期ごとの通期業績に対する進捗率にはブレが生じる
- 直近3か年は上半期に利益が集中する傾向



期初時点では上記を踏まえた業績予想を立てているため、
四半期ごとの波はあれど**通期の達成にコミット**して
事業運営を行っている

四半期ごとの営業利益

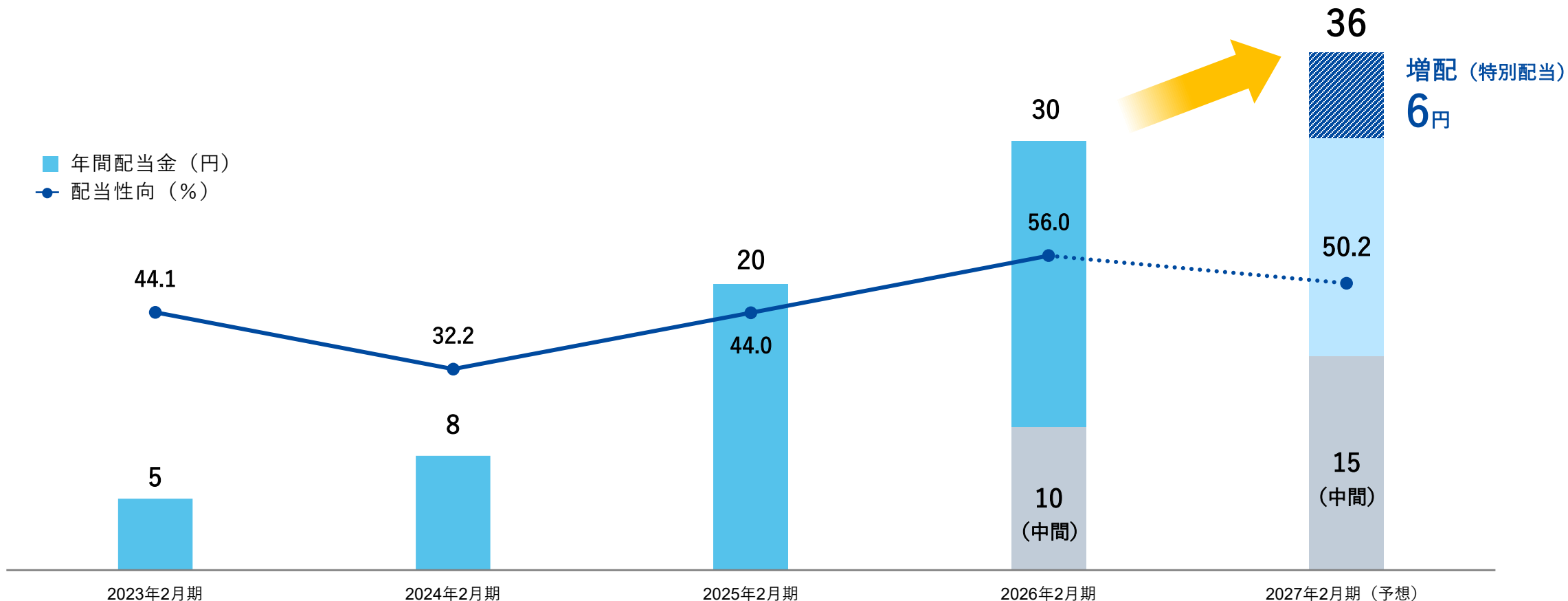
（単位：百万円）



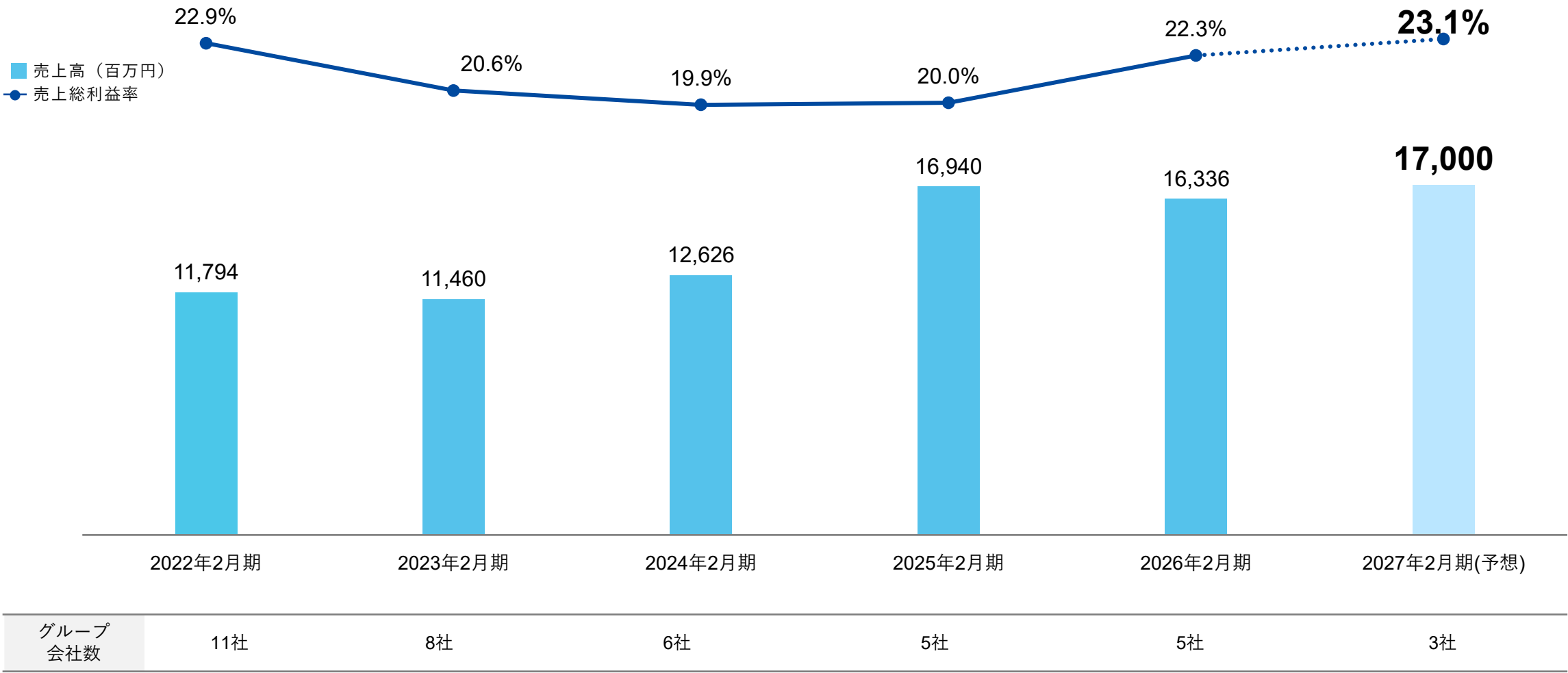
配当金の推移 | 年間配当・配当性向

配当性向**50%以上**を還元する方針とし、**2026年2月期**は前期比**10円増配**し通期の配当金を**30円**（配当性向は**56.0%**）とした。

2027年2月期は、業績予想の修正に合わせて期末配当を**6円増配**し、通期の配当金は**36円**（配当性向は**50.2%**）を予定。



連結業績推移 | 売上高・売上総利益率



会社概要

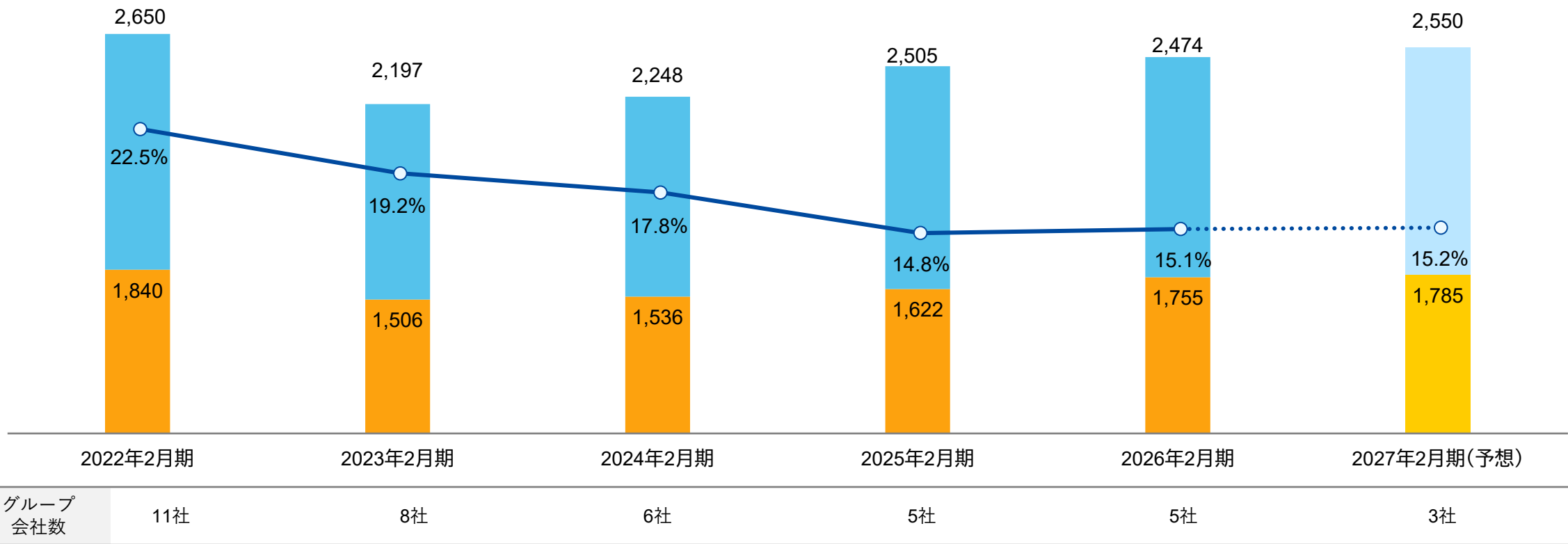
決算概要

業績予想

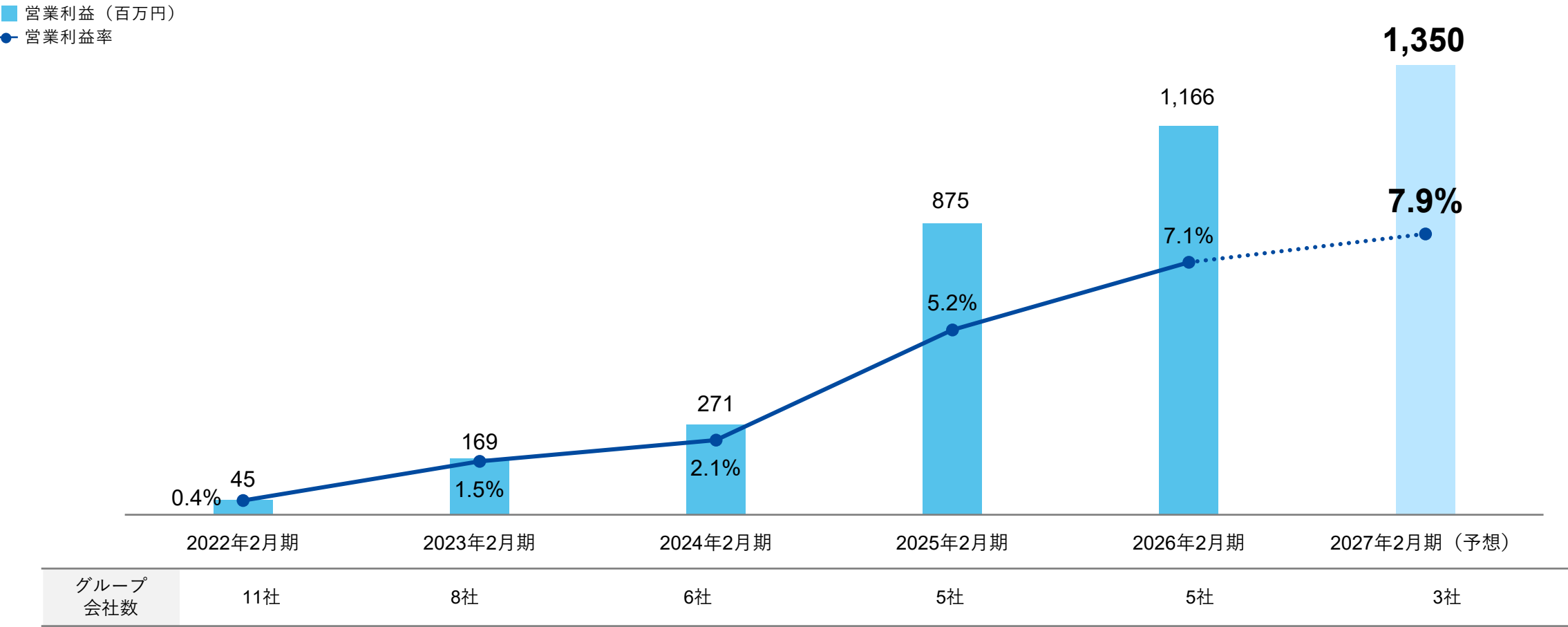
成長戦略

連結業績推移 | 販売費及び一般管理費の推移

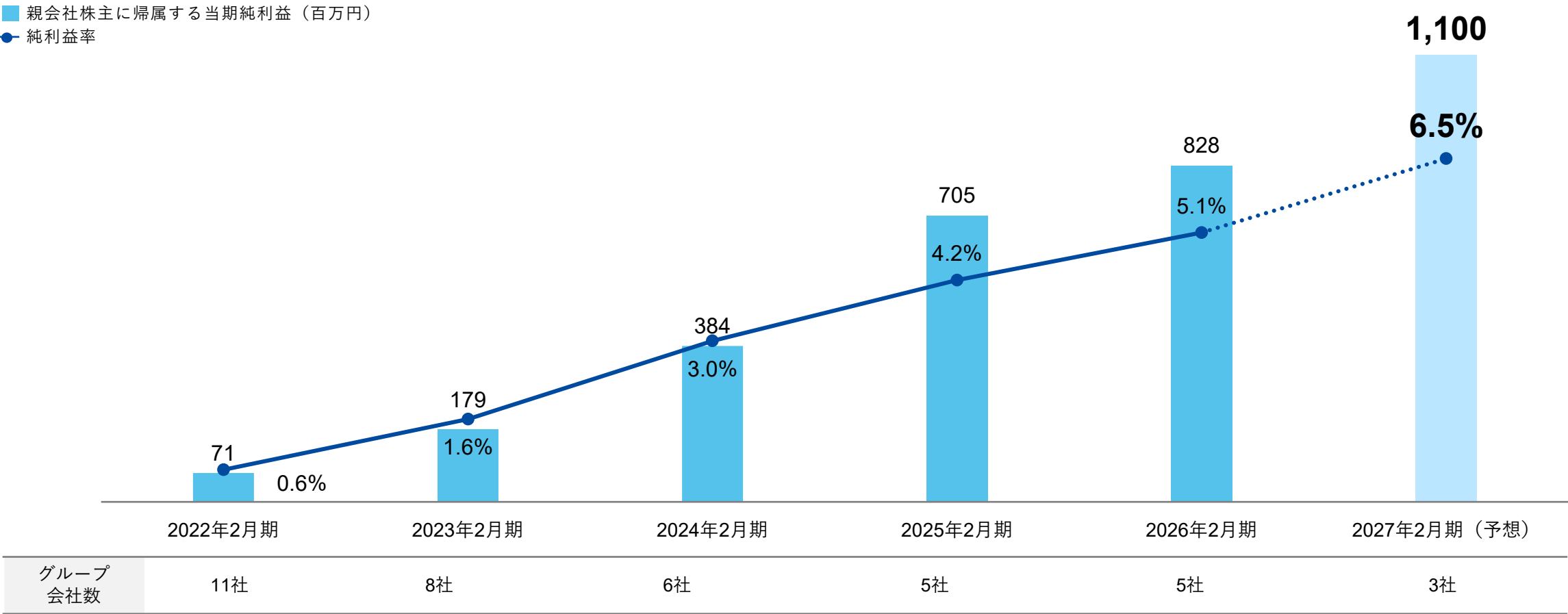
人件費（百万円）
経費（百万円）
販売費及び一般管理費率



連結業績推移 | 営業利益・営業利益率



連結業績推移 | 親会社株主に帰属する当期純利益・純利益率



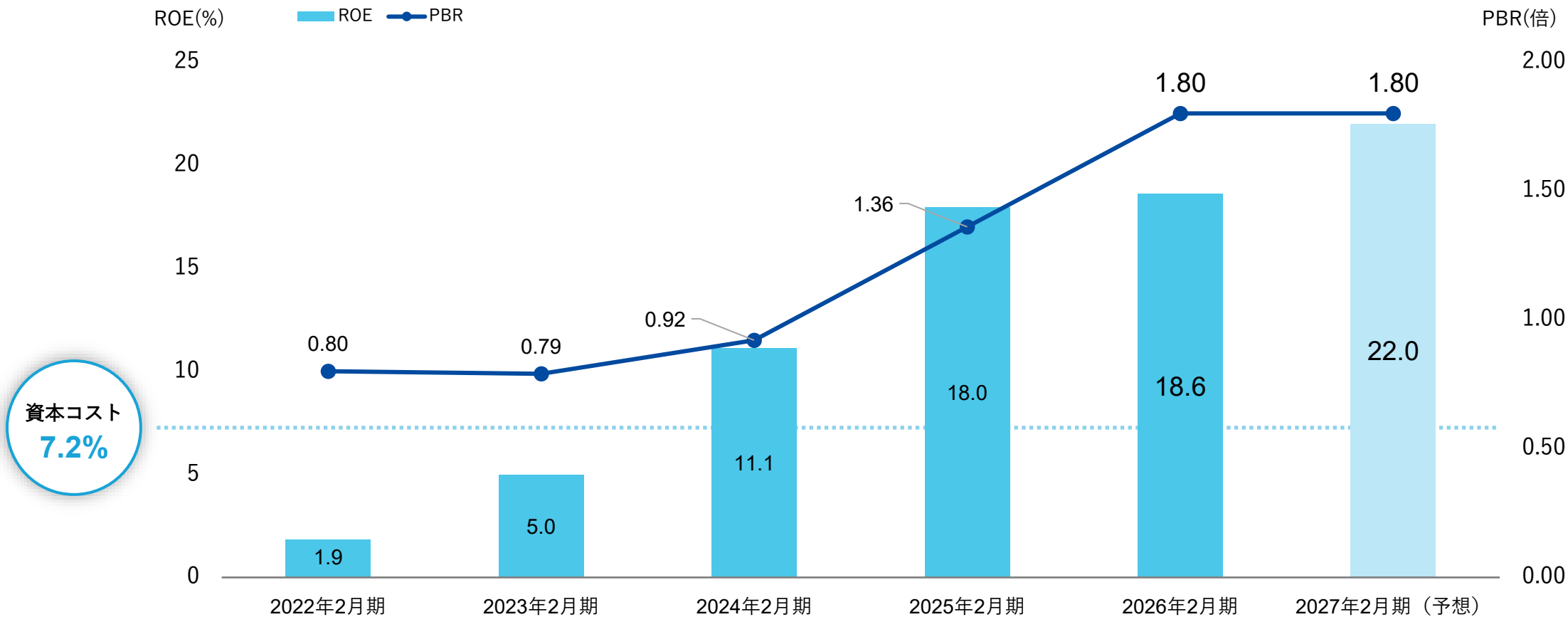
会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

連結業績推移 | PBRとROEの推移



■ Growth Strategy

成長戦略

第5次中期経営計画とビジョン

第5次中期経営計画

今期の重点課題の取り組み

業績推移

04

第5次中期経営計画とビジョン

スローガン
NEXT STAGE
2030

時代の変革に挑み続け、
持続的成長を実現する

第5次中期経営計画

(2025年3月～2028年2月期)

基本方針

持続的な利益成長による企業価値向上を目指し、
新たな成長ステージへの基盤を構築する。

重点戦略

1

新たな
成長基盤の
構築

2

更なる
収益性の向上

3

ESGの推進

- 2030年までの成長目線で、首都圏の建設需要、大阪でのIR統合型リゾート関連需要を取り込みながら収益力を高めていく。
- 引き続き収益性に注力し、資本コストと株価を意識した経営を展開し、持続的成長を実現する。

ビジョン

快適空間を
プロデュースする
最強のプロ集団による
オンリーワン
グループ企業となる。

今期の重点課題への取り組み

重点戦略

1

新たな成長基盤の構築

成長基盤の拡大

より大型案件の受注ができる体制の構築

新商材の開発・販売強化

特許取得済みの新商材を戦略商品として育成

成長領域の拡大

既存事業の成長に資するM&Aの実現

2

更なる収益性の向上

稼ぐ力の強化

利益率重視の受注戦略を推進

コスト削減

資材価格の値上げへの対応強化

生産性の向上

生成AI活用によるDX推進

3

ESGの推進

人的資本投資

人材採用、育成、定着への投資拡大

ガバナンス強化

新ガバナンスコードへの対応

株価を意識した経営の推進

配当性向50%以上の株主還元を実施

1. 新たな成長基盤の構築

新商材の開発

ハイブリッド超軽量 リサイクル紙・アルミ製天井材

「アトラスボード®」 (特許取得) 特許番号：第7675470号

落下によるケガへの危険性を限りなく低くするための超軽量材の開発に着手。



従来の課題

- ❗ 天井落下による事故リスク
- ❗ 建材の重量による施工負担
- ❗ 職人不足による施工効率化の必要性
- ❗ 厚みによる空間・設計の制約
- ❗ 建材廃棄による環境負荷



アトラスボードで解決

- ✔ 超軽量化により、落下時の衝撃やケガのリスクを低減
- ✔ 軽量素材を採用し、運搬や取り付け作業の負担を軽減
- ✔ カッターで容易に切断でき、特別な技術なしで施工可能
- ✔ 石膏ボードの約3分の1の厚さで、空間効率と設計自由度を向上
- ✔ リサイクル紙を主原料とし、再利用やケミカルリサイクルに対応

「アトラスボード®」事例紹介

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

株式会社 サンケンシステム



施工実績

HERALBONY GINZA 様

外壁部に採用され、左官仕上りを施している点が特徴



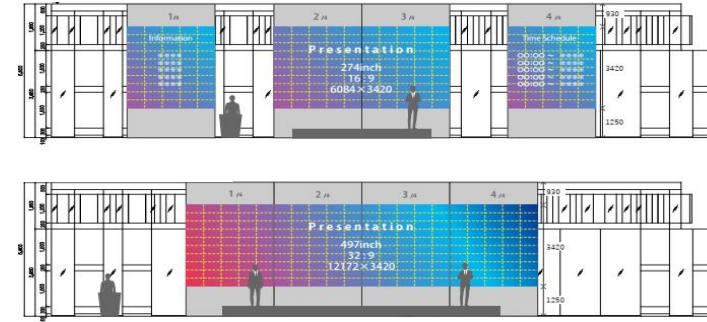
熊本県益城町 学びと支えあいの複合施設 YPみらいえ 様

地域住民が安心して利用できる空間づくりを意識した内装施工を指導。機能性と快適性を両立した施設を実現しました。



可動間仕切り空間のための新しい大画面システム 「スライディングLEDウォール」

天井レールに沿ってLEDパネルをスライド移動できる特許技術により
区画変更やステージ位置に柔軟に対応可能。



従来の課題

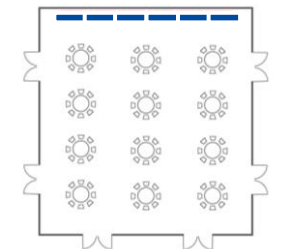
- ❗ イベントごとに再設置が必要
- ❗ 設置に時間と人手がかかる
- ❗ 固定型LEDは区画変更に対応不可
- ❗ 多様な演出に対応しにくい



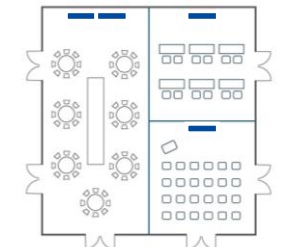
スライディングLEDウォールで解決

- ✅ スライド移動可能のため再設置不要
- ✅ 作業がシンプルで設置時間が大幅削減
- ✅ 区画ごとに柔軟配置が可能
- ✅ イベントに合わせて柔軟な演出が可能

配置例



大きな空間に大画面として



3つに分けた空間で
それぞれの用途に応じて

「スライディングLEDウォール」 事例紹介

株式会社 日商インターライフ

株式会社システムエンジニアリング

株式会社 サンケンシステム



施工実績

JWマリオット・ホテル東京 様

JWマリオット・ホテル東京の宴会場において、「スライディングLEDウォール」を導入。
 格式と機能性を両立し、国際会議や大規模イベントにも対応可能な空間を実現しました。



会社概要

決算概要

業績予想

成長戦略

巻き上げて収納できる新しい大画面システム

「電動巻上式LEDスクリーン」

必要なときだけ降下させ、使わないときは天井内へ巻き上げて収納が可能。

活用イメージ

結婚式

ホテル・バンケット

会議室

多目的ホール

LEDスクリーンの輝度を活かし、明るい室内でも鮮明な画像が表現できるため、結婚式場やホテルのバンケット、多目的ホールなどに最適な製品



従来の課題

- ❗ 投写型スクリーンは明るい室内で映像が見えにくい
- ❗ 常設型LEDは空間のデザインや使い方に制限が生じる
- ❗ イベントごとにディスプレイの搬入、仮設が必要



電動巻上式LEDスクリーンで解決

- ✔ LEDビジョンだから明るい室内でも視認できる
- ✔ 電動巻上式であるため、必要なときだけ降下できる
- ✔ 未使用時は天井内に収納でき、設置・撤去の手間を削減

第5次中期経営計画

スローガン

NEXT STAGE 2030

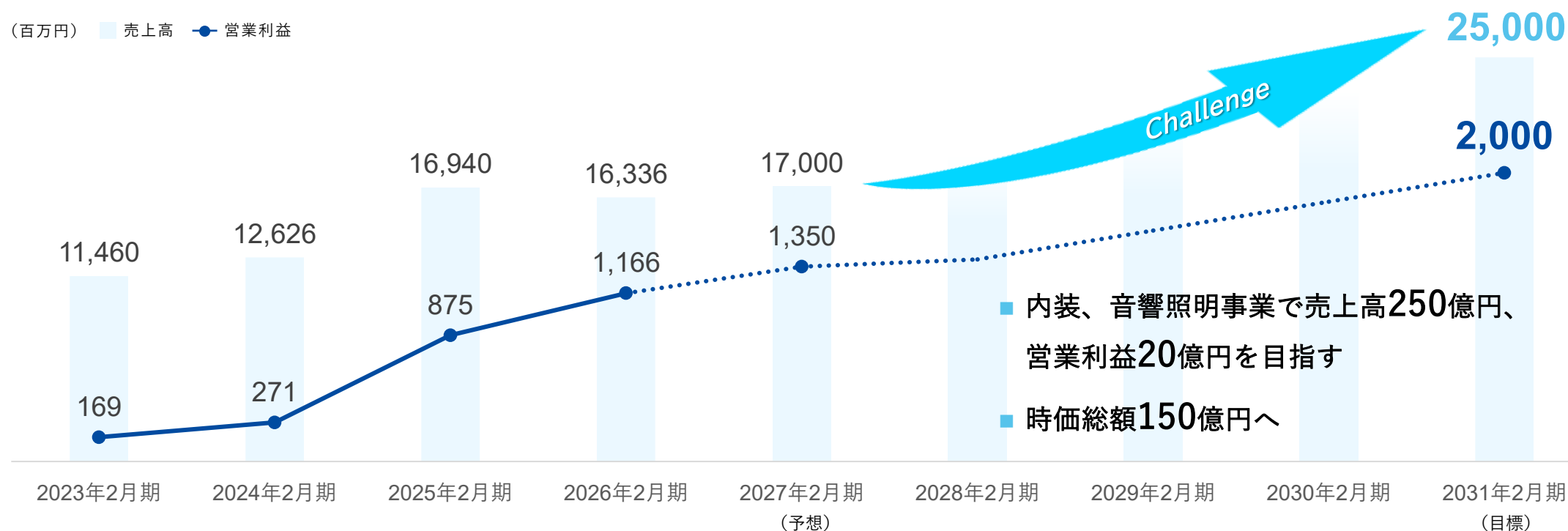
時代の変革に挑み続け、持続的成長を実現する

第4次中計 2023年2月期~2025年2月期

第5次中計 2026年2月期~2028年2月期

2030ビジョン

(百万円) 売上高 営業利益



■ Appendix

- 株価推移
 - 株主構成
-

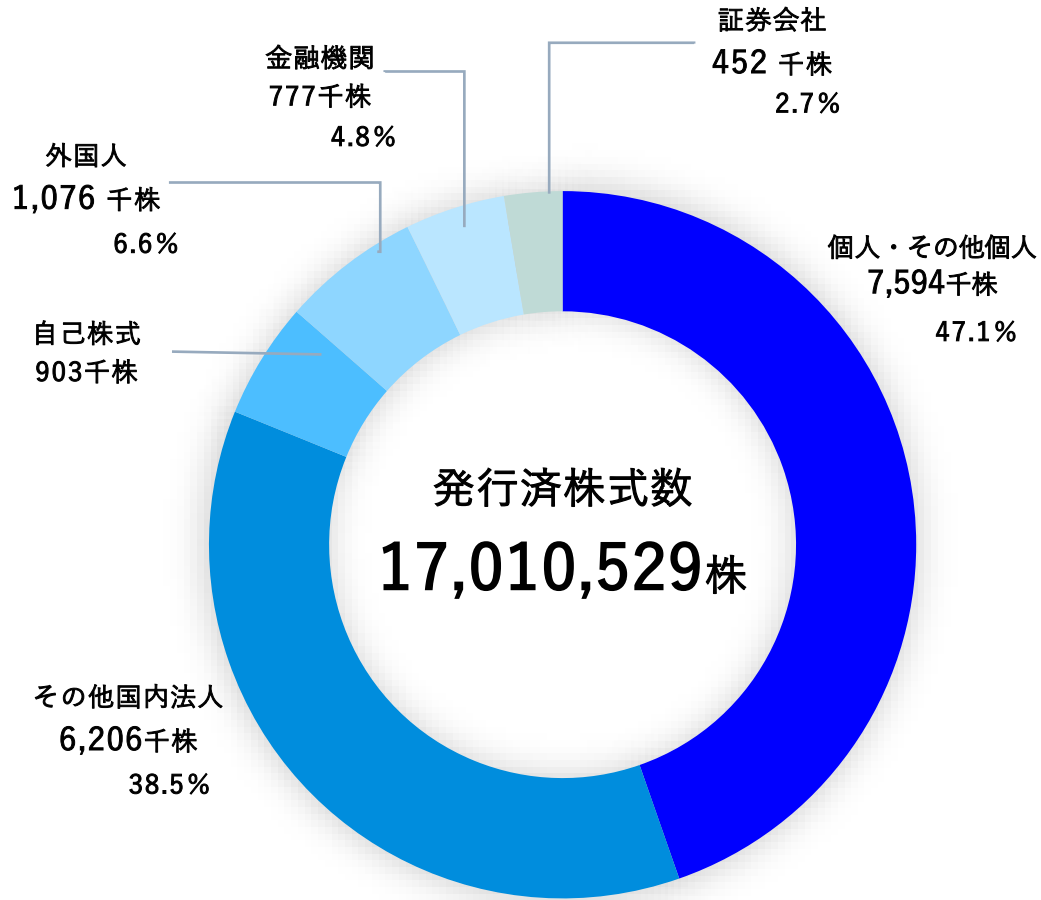
05

株価推移 (2023年2月末～2026年8月末)



発行済株式数	17,010,529株	
株主数	8,950名	
株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社辰巳	4,966	30.83
株式会社日本カストディ銀行（信託E口）	749	4.65
インターライフホールディングス取引先持株会	495	3.08
株式会社乃村工藝社	445	2.76
インターライフホールディングス社員持株会	428	2.66
東京建物株式会社	400	2.48
RE FUND 107-CLIENT AC	228	1.42
及川民司	220	1.37
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	217	1.35
インターライフホールディングス役員持株会	179	1.11

※ 1 ㈱日本カストディ銀行（信託E口）所有の749千株は、株式給付信託導入に伴う当社株式であります。
※ 2 持株比率は、自己株式903,680株を除いており、小数点第3位を四捨五入しております。



※ 株式数比率（%）は自己株式を除いた比率



IRに関するお問い合わせ

インターライフホールディングス株式会社 経営企画部

TEL 03-3547-3227（代表）
FAX 03-3547-3234
E-mail info_hp@n-interlife.co.jp

本資料の取り扱いについて

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは発表日時点において把握できる情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。

あくまでも将来の予測であり、右記に挙げております様々なリスクや不確定要素により、実際の業績と大きく異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

- 市場における価格競争の激化
- 事業環境を取り巻く経済動向の変動（個人消費を中心とした経済状況の変動）
- 資本市場における相場的大幅な変動（株式市場相場的大幅な変動）
- 税制の大幅改正
- 上記以外の様々な不確定要素